



ストーマ造設術が子どもと家族に与える影響

ストーマ造設術は、お子さんと家族の双方に大変大きな影響を与えます。家族全員が日常生活の変化を経験し、その変化による影響は計り知れません。この記事は、小児のストーマケアの国際的ベストプラクティスガイドラインをもとにまとめられた2回シリーズの1回目になります¹。今回は、新生児から学童期の子どもに焦点を当て、異なる発達段階のニーズに合わせたケア方法についてご紹介します。

新生児

この発達段階の特徴

新生児期は、親、特に母親が新生児と触れ合うことが重要であり、母親と多くの時間を過ごすことになります。

ストーマ造設術による精神的影響

生まれた子どもに先天的な病気があった場合、例えば腸管や尿路のストーマを必要とする病気があったとしたら、初めて子どもを持つ両親にはとても辛い経験になるでしょう。病状によってはお母さんと赤ちゃんが引き離され、初めての絆をしっかりと築く時間が作れない可能性もあります。両親は、自分を責めたり、罪悪感やショック、自信を喪失するなど、いろいろな感情を抱くこととなります。もしかしたら、赤ちゃんの状態を見て、自分は良い親にはなれないのではないかと思うかもしれません。

「小児のストーマケア：新生児、幼児、児童に対する国際的なベストプラクティス (Paediatric stoma care: Global best practice guidelines for neonates, children and teenagers)」をご紹介します。

小児のストーマケアはまだエビデンスが少ない分野であり、文献や研究報告があまりありません。この分野の詳しい情報を提供するため、小児ストーマケア専門家の国際的なグループである世界小児ストーマ認定看護師諮問会議 (Global Paediatric Stoma Nurses Advisory Board, GPSNAB) が医療従事者向けの国際的なガイドラインを作成しました。このガイドラインは、ストーマ造設の必要性やストーマ造設術による精神的影響への対処まで、小児のストーマケアのあらゆる領域を網羅しています。ガイドラインは [Coloplast Professional](https://www.coloplast.com/jp/professional) に掲載されています。

看護師の役割

キューブラー＝ロスによる5段階モデルをよく理解しておくとい良いでしょう²。このモデルは親が実際に、「完璧な赤ちゃん」を持たなかったことに悲嘆する経験に関連性があります。このような経験をした人々はキューブラー＝ロスのモデルの段階を経験していくことになります。親が今、悲しみのどの段階にあるのかを見極めることが重要です。悲嘆のどの段階にいるのかによって、支援方法を検討していくことが大切です。

¹ Paediatric stoma care: Global best practice guidelines for neonates, children and teenagers, published in December 2018

² このモデルの詳細は小児科学ガイドラインの用語集をご参照ください。

親もまた、安心感を求めています。自分たちが一人ではないこと、いつでも専門家の支援を受けられることを実感してもらう必要があります。

看護のポイント

1. 医師からの説明を理解しているかどうかを確認すること。
2. 親が自分の気持ちを打ち明けられる時間と空間を与えること。
3. 赤ちゃんの前向きな成長を強調するようにすること。
4. 親を食事やおむつ交換、スキンケアのほか、体を支えたり、スキンシップに積極的に関わらせるなど赤ちゃんの日常的な習慣に参加させるようにすること。
5. 毎日の習慣が確立されたら、ストーマケアと装具交換の基本を親に指導すること。ストーマに触れても赤ちゃんを傷つけることはないことを再認識させることが重要です。
6. 指導には必ず両方の親を参加させ、適切な手技の維持に努めましょう。

生まれてから2歳まで

この発達段階の特徴

この年齢の子供たちは通常、知らない人を怖がりません。たいていの子どもは、他人よりも親を信頼しているからです。周囲の環境や周りにいる人の表情に大きく影響されます。

ストーマ造設術による精神的影響

子どもが手術を受けなければならなくなったとき、親は悲しみや不安を感じるものです。子どもの反応を心配し、手術による苦痛を想像してしまうこともあるでしょう。また、子どもが親に怒りを表わすこともあります。病気による混乱や苛立ち、苦痛、そしてこれから受けなければならない手術などはみな、親のせいだと感じてしまうのです。



看護師の役割

この年齢の子ども達は親を信頼しているため、看護師は親と良好な関係を築くことが重要です。親が看護師を信頼していると分かれば、看護師を信頼できる人なのだと理解するはずで、遊びや身体的なふれあいを通じて、子どもとの信頼関係を確立することができます。そうすれば、看護師との関わりが嫌なことと結びつけて考えることは少なくなります。この年齢の子

どもは周りの環境に大きく影響されるため、ケア全体を通じて、看護師と親の両方が前向きな表情や言動を使用することが大切です。そうすれば子どもはきっと、ストーマを受け入れやすくなるはずです。

幼い子供はその瞬間瞬間で物事を感じています。（例えば装具交換など）装具交換の準備が整うまで、具体的な説明は避けましょう。ストーマのケアは子どもが理解できる言葉で説明してください。自分に合わせるよう子どもに求めるのではなく、子どもに合わせるよう努めましょう。

看護のポイント

1. 装具交換を始める前に、必要な物品をすべて用意しましょう。
2. 親に協力してもらい、落ち着いた雰囲気を作りましょう。注意をそらすものが周りがあると、子どもが集中できなくなることがあります。
3. 子供を装具交換に参加させ、子どもの声に耳を傾けましょう。
ただし、一定のルールがあることを伝えておく必要があります。
4. この年齢の子供たちにとって、ストーマに興味を示し、いろいろと触ってみたいくなるのは自然なことです。ストーマにあまり意識が向かないよう、ワンピースや上下が一続きになった衣服を着せておくとい良いでしょう。

就学前の小児

この発達段階の特徴

就学前の子どもには自立と自主性が必要です。生殖器を意識する年齢であり、トイレットトレーニングが行われるのもちょうどこのあたりの年齢です。就学前の子どもは自分の身体に非常に興味を持ちます。身体の中で最も注目される部分が最も重要なのだと自然に思い込むようになります。

ストーマ造設術による精神的影響

子どもは手術に関して相反する様々な感情を抱きます。ストーマを一種の罰であるかのように感じることも少なくありません。中には恥ずかしいと感じる子どももいます。また、男の子では、手術は生殖機能を失うのではないかと考えてしまう場合もあります。親は罪悪感を覚え、子どもを甘やかしてしまうこともあるでしょう。反対に、それとは逆の反応を示し、過保護になるケースもあります。こういった反応は自然なものです。親は子どもを普通に育てるべきだということを認識しておかなければなりません。子どもがストーマとうまく付き合っていけるようにすることが必要です。

看護師の役割

就学前の幼児にとって、消化器系や泌尿器系は分からないことだらけです。身体の部位について名前は言えても、内臓の働きについてはほとんど知識がありません。看護師の役割は、シンプルでわかりやすい言葉を用いて、これらの働きについて説明することです。子ども達の空想の世界を探り、その想像力を味方につけましょう。自分の感情を率直に表現できない子どももいますが、指人形や人形をうまく使って心を開かせ、不安や感情を言葉にするよう働きかけます。

看護師の役割

看護師は、子どもの自主性を尊重し、働きかけることが大切です。子どもをストーマケアに積極的に関わらせることで、子どもは日常生活をある程度取り戻せるのだということを実感できるようにしていきます。子どもと向き合うときには、就学前の子どもの場合の方法をいくつか応用できます。看護師の目標は、状況を正確に把握し、すべてを明確かつシンプルな言葉で説明することです。子どもの不安な心を開くよう努めることで、彼らの精神的な影響に速やかに対応することができます。

看護のポイント

1. ストーマケアに子どもを積極的に関わらせるように、親に働きかけましょう。何でもやってあげたいという気持ちを抑えられるようにしていきます。
2. 子どもが退院した後も、継続して支援や助言ができるよう、家族と連絡を取り合い、継続的な支援を行いましょ。

看護のポイント

1. 学齢期の子どもの場合、在校時に助けを求められる、少なくとも2人以上のスタッフが必要です。
2. 漏れが生じた場合に備えて、ロッカーに余分な衣服とストーマ用の物品を準備しておくよう説明します。

学齢期の子ども達

この発達段階の特徴

この年代の子どもは自主性を身につける段階になります。個人的なニーズに自分で対応することができます。能力を獲得し、できることが増え始める時期です。学校に通う生徒だというだけでなく、学齢期の子どもになると自分たちの活動や社会生活を営むようになります。また、親密さが重要になってくる年齢でもあります。自分の生殖器に恥ずかしさを感じるようになる場合もあります。

ストーマ造設術による精神的影響

この年齢でストーマを造設すると、子どもが苦労して獲得してきたものが失われてしまう可能性があります。手術前には自分のことを一人でできていても、術後にはこれがすべて変わってしまいます。突然、ストーマが気になって仕方なくなります。子どもは混乱し、不安になり、恥ずかしいとさえ感じることもあるかもしれません。親は、多くの場合、子どもよりも大きな精神的影響を受けます。子どもが学校を休むようにならないか、子どもが家から離れているときにストーマ装具から漏れたらどうするのか、などといったことが不安になります。子どもをいじめから守れなかった場合、罪の意識を感じる場合もあるでしょう。

本シリーズの2番目の論文では、ストーマ造設術が思春期の子どもとその家族に与える精神的影響について考察します。

小児科学におけるストーマケアや教育に関する実践的なヒントやガイドラインは、「**小児のストーマケア：新生児、幼児、児童に対する国際的なベストプラクティス** (Paediatric stoma care: Global best practice guidelines for neonates, children and teenagers)」をご参照ください。[Coloplast Professional](#) からダウンロードできます。